



昨年7月に行われた「光ライト祭り」

関誌「かわら版」の発行などの活動が行われています。

また、平成15年に発足した「海商通りのれん会」では、海商通りに店をかまえる皆さんが協力して、案内地図を作ったり、「光ライト祭り」を開催したりして、海商通りの魅力を高め、活気ある地域を目指した活動が行われています。

さらには、心のこもったおもてなしを町ぐるみで推進し、観光客を温かく迎える住民意識の高揚を図ろうと発足した「室積観光ホスピタリティ推進協議会」。ここでは、地域における観光客の受け入れ体制の整備や、情報発信、ホスピタリティマニュアル作成などの活動が行われています。「室積観光ポランティアガイドの会」は平成9年に発足し、室積を訪れた方々に、もっと楽しんで帰ってもらおうと海商通りとその周辺を無料で案内されるなど、精力的な取り組みが展開されています。

山車(だし)が町中を曳き回されます。山車は1733年の大火で消失しましたが、1757年に新造され、現在まで使われています。これらの山車は、市の民俗文化財の指定を受けています。以前、私も光まつりで山車を曳いたことがあるのですが、その勇壮かつ郷土色豊かな様子は、かつて海商銀座として繁栄した当時を偲ばせます。

高札場

次に早長八幡宮に近いところに、復元された「高札場」があります。この高札場には、藩のお触書や通達などをはじめ、室積の中の出来事や落し物探し物などを民衆に

「海商通り」一口メモ

うなぎの寝床

「町家造り」の別名で、奥行きに比べて小さな間口が特徴です。間口に比べてその奥行きが長い格好が、まるでうなぎの寝床のように見えることからこの名前がつけました。なぜこのような造りになっているのか？これは、幕藩時代、税制が間口の広さを対象としたため、住民が節税のために間口を小さくし、奥行きを長くした建物の造り方になったそうです。



アイゴ

大通りの奥にある小さなわき道。隘巷(あいこう)からきているこの地域の方言だそうです。大通りは人通りが多く、あいさつをしなければならなかったり、きちんとした服装で歩かないと恥ずかしかったり...アイゴは人目を気にせず歩くことのできる

通路だったそうです。西洋の文化を取り入れた、当時としてはハイカラな赤レンガ造りの壁があるアイゴもあります。



高札場

知らせる役割があったそうです。今で言う、掲示板のようなものです。

市民ツアー出発

それでは、市民ツアーに同行して「海商通り」の魅力を、順に紹介していきましょう。



早長八幡宮

今回の市民ツアーは、まず早長八幡宮から出発です。ここは、江戸時代に瀬戸内海の交通の要衝として栄えた室積地域の氏神で、応神天皇などの神が祭られています。毎年10月に開催される秋祭りでは、北前船が伝えたと言われる威勢のよい「木遣唄」(きやりうた)とともに、7種類10車両の



市民ツアーに参加しました

身近になった私たちのまち

山口昇さん(上島田9丁目)



光市に住んで43年、こんなにじっくり海商通りを歩いたのは初めてでした。ガイドさんの説明のおかげで、よく理解できました。「アイ」一口メモなど自分たちだけでは知ることができなかったことも知ることができました。

海商通りは、歴史的遺産のあるところだと思います。もっと多くの方に知ってもらいたいと思います。

橋本賢郎さん・不左恵さん(塩田)



郷土のすばらしさを再発見

海商通りは昔のままを保存しなければいけないと思いますが、もう少し観光しやすいように整備されると良いと感じました。海水浴の帰りなど、皆さんが気軽に立ち寄ってくれるような名所になるといいですね。

今回のツアーは、島田・室積地域が中心でしたが、全地域でやってもらいたいと思います。友だちに、とっても楽しいツアーだと言って勧めます！

見直そう ふるさと光

上村茂さん・孝代さん(光井5丁目)



ふるさとを見直す

横田賢一さん・ミヤさん(岩田)

こんなに近くに住んでいるのに、知らないことって多いんですね。室積がこんなに歴史ある興味深いところだったなんて知りませんでした。

室積には、海もあるし山もあります。スポーツのイベントを行ったり、自転車を置いたりして、海商通りを含め、室積全体での観光コースができると思うのでないかと思いました。

このツアーは、ふるさとを見直すきっかけとなりました。

光は気候も景色も良く、とても素晴らしいところだと思います。海商通りも見えます。古いものを守り続けている人たちの努力は、本当にすごいと思いました。ここには観光の核となるものがないと思います。何か目玉を作って、もっと人が集まるといいなあと思いました。



なるものがないと思います。何か目玉を作って、もっと人が集まるといいなあと思いました。